

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員と一緒にいき、毎年外部評価結果を基に自分達に不足している部分を改善する様努めている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、家族の参加も増え、市担当者も出席して下さり、皆様運営推進会議の意義を理解して頂き、外部評価の結果等を含め様々意見を参考にしながら日々のケアに活かしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者が、運営推進会議に出席された事により、密着な関係が築かれ、相談事にも協力、指導頂いている。又市には、自己評価、外部評価の結果報告をしています。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会を依頼し、内部研修で権利擁護事業について勉強すると共に、成年後見制度を利用している利用者がある為、職員が理解、周知している。	○ 今年度も、勉強会を通して、制度の理解を深めたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法第二条に定める従事者として、虐待はしない、させないを基本にし職員全員が、個人を尊重し配慮の心を持って接し、何度も振り返り意識付けしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は、契約書、重要事項説明書に基づき、十分な説明を行い、利用者や家族の意向も踏まえながら納得、理解頂いた上で取り組んでいる。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな不満や苦情が大きなトラブルにならない様日頃の表情、態度を個々に観察し、その人の思いを感じ、出された意見には、速やかに応じて改善に努めている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常の様子は、面会時に伝えたり、体調不良時には、都度電話にて報告している。金銭管理については、月末収支明細書、領収書を添えて発送している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、気軽に家族と意見交換出来る様交流を図りながら家族の心配事、意見等を聞き取り出された意見は改善、サービスの質の向上に努めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや会議等で意見を聞き、出された意見は職員会議で話し合うなどして反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な欠員が生じた時には、24時間体制での職員の対応が確保され、他館の協力体制も整っており、利用者本位の暮らしを大切に支援している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動の際は、引き継ぎがスムーズに行える様、十分に時間を設け、利用者への混乱等を最小限とし配慮に努めている。又他館との交流を持ち、顔なじみの関係作りに心掛けている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に、出来るだけ参加する様にし、受講後は報告書を作成すると共に、会議等で共有化、周知徹底し年間計画も作成している。又内部研修を実施したり、グループホーム関連の書物を購入している。	○	年間計画を作成したが、なかなか全員が受講するには、至っていなかったので来年度は、今年度より計画を立て、一人でも多くの職員が参加出来る様に取り組む実行したい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会等に参加する様にしている。今年度は、他のグループホームと交流を持ち、職員がその意味を理解し、お互いに質の向上に努めている。	○	もっと機会作りし、交流を深めたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃の労をねぎらったり、親睦を兼ね機会ある事に、催事を設けて下さったり、声を掛けて気遣って頂いたりしている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、常に職員との交流、面会を大切にし労働、健康面に於いても管理、把握され働きやすく、やりがいのある職場作りに配慮頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受ける際は、今までの苦労を理解、評価しながら本人、家族の思い、要望に添う様、十分時間を掛けると共に安心して利用出来る様に努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを深く汲み取り傾聴し、何が必要かを話し合い職員、ケアマネジャーと相談対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と相談し、本人の生活習慣、生活歴を尊重し不安要素を少しでも解消し、安心して生活出来る様支援、居心地の良い雰囲気作りに配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、家事、手芸、園芸、懐かしの遊び等から、その人に合った役割、楽しみを見いだし出来る事の喜び、必要とされる喜びを共感、共有しながら生き生きと毎日生活が過ごせる様支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の状態説明を行い利用者主体のサービス提供が出来る様家族の思い、気づきを大切にし協力しながら取り組んでいる。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や、ホーム便り等で本人の様子を伝えたり、行事への参加の促し、気軽に面会、外出、外泊し易い雰囲気作りに心掛け、良好な関係が保つ様支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その地区の習わしや、祭りをはじめとして様々な季節の行事、なじみの習慣を取り入れたり、これ迄関わって来た人、場所へは外出、面会等で可能な限り継続し大切にしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々を良く把握し、職員が間に入り関係が上手く持つ様にしている。又利用者同士の助け合い、気まづくなった時の修復にも支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先や他施設に会いに行ったり、退院後もいつでも相談に応じる事を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から思い、希望をそれとなく確認し、必要に応じ家族、関係者から情報を得、出来る限り本人の意向に沿う様努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人、家族、友人からさりげなく生活歴や暮らし方、利用サービス等情報収集を行い、アセスメントに反映させ必要に応じて、日々のケアに役立て手いる。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムを記録、申し送り職員が情報共有を図り、心身の変化に留意すると共に、その人の経験、能力、出来る事などを把握し、生活の中で活かす事が出来る様努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人の思い、家族の意向を踏まえ月1回のミーティングで、職員が意見を出し合ったり日常的に職員間で意見交換を行い、反映させた介護計画となっている。又今年度は、看護師による長谷川式スケールを行い介護計画に反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族の要望を取り入れ見直しを行うのは勿論、目標の達成度により、随時見直しの検討を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のファイルに、活動記録、チェック表、管理記録表等を備え、日々の様子や身体的状況を詳しく記録し、申し送りやミーティングで情報の共有を行い日々の介護や計画の見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の配置により、通院、入退院時の同行、行事での利用者の体調観察等、日常的健康管理を行っている。又系列の医療機関の夏祭りに、家族一緒に参加する等、利用者の楽しみの場も作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会長、民生委員、老人クラブ、派出所の方へは、無断外出の救護をお願いし、利用者が安心して生活出来る様にしている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、ケアマネジャーや福祉用具専門員、各機関と連携を図りながら、サービスを利用出来る様支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今年度は、地域包括支援センターと、関わりはありませんでした。	○	必要があれば、相談、協力、連携を図って行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後も、職員全員が、終末期への心構えを持ち、もっと理解を深め対応出来る様取り組んで行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の常態変化が生じない様、家族、ケアマネジャー等と協力しながら、安心して住み替え出来る様になっている。又必要に応じて生活状況や注意点などの情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が、同じ目的意識を持って利用者に、関わる事が出来る様に、ミーティング等で再確認し合い、拒否的言動、ゆっくりとした声掛け、羞恥心、プライバシーに配慮している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	パートナーケアを第一に考え、利用者一人一人に合わせた声掛けを行い、職員の押しつけではなく、個々の力量に応じて自己決定を促す場面作り心掛けています。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の認知レベルでの生活障害や行動障害を解決し、日常生活を好きな様に過ごす事が出来る様、柔軟な支援を行っている。	○	常に本人の意向を重視し、声掛けをしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者個々の好み、希望を尊重し外出先等も考慮しながら、衣類の選択、おしゃれを楽しむ事が出来る様支援している。又希望によってなじみの理、美容院へ調整、送迎している。	○	外出難しい利用者は、2ヶ月に1回美容院の訪問を受けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や好み、苦手な物に配慮し献立を作ったり、好みの食材を一緒に買い物したりしている。又状況や意思等に応じて調理の準備や後片づけ等促し職員も一緒に行っている、	○	食事の際は、可能な限り職員一緒に席に着き会話を楽しんだり、食べこぼし等さりげなくサポートしている。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	全職員が、個々の嗜好品を把握し、本人の好みのもので楽しむ事が出来る様支援している。又希望があれば外食の機会も設けている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを観察、記録し状況、状態に合わせて、使い分け、羞恥心、プライバシーに配慮した声掛けをし速やかに対応している。	○	トイレで、自立に向け排泄してもらおう様支援している。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね入浴日は決まっているが、個々の入浴習慣や好みを把握し、利用者の意向を取り入れ楽しむ事が出来る様支援している。又拒否する利用者には、声掛け、間を持ったりし対応の工夫をしている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は出来るだけ、軽作業や趣味活動で適度に身体を動かしたり、個々の状態に合わせて休息を促す等安眠を支援している。夜間寝つけない利用者には、付き添ったり、飲み物を提供し支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や力量に応じ、能力を引き出す働きを行い、その人に合った役割、楽しみ事を見だし張り合いや、喜び、生き甲斐の持てる支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者自らが金銭管理を行う事の重要性を理解していると共に、個々の希望、状態により買い物時直接払ったり、つりをもったり、好みの物を選択してもらう事を大切にしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の興味のある事、希望に添った外出は日常的に行い、楽しみや気分転換を図っている。又状態に合わせて移動距離、方法、人員に配慮している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせた年間行事を作成し、家族も一緒に楽しむ事が出来る様取り組んでいる。又個人の希望も出来るだけ叶えられる働き掛けも行っている。	○	家族等と相談しながら、希望を年間行事に組み入れたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がいつでも電話を使える様開放し、使用時は席を外す等プライバシーに配慮している。手紙の交換はありませんが、来た郵便物については、代読しいつでも歓迎出来る支援となっている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めず、いつでも訪問出来る様支援している。気兼ね無く居室でゆっくり過ごして頂ける様雰囲気、場所作りを大切にし接待している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	BPSDに対する基本的対応を職員は、理解してミーティングや、日々のケアの中で事前の対応を心掛け一人一人が自覚し、身体拘束をしない取り組みをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向を察知出来る様、行動観察、見守りし職員声を掛け合っている。察知した時は、利用者の思いに添う様、付き添い、寄り添っているが、やむを得ず施錠する場合は、家族に説明し同意を得ている。	○	利用者個々の行動障害が起こる原因を考え、事前対応に心掛け、鍵を掛けない取り組みを行って行く。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者が見える場所に必ずいる様にし、状況の把握に努め、夜間は見回りを行い随時安全確認を実施している。職員が手薄になる時は声を掛け合っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じ、自己管理出来る物はしてもらい、注意の必要な物品については保管場所を決めたり、施錠、目隠ししたりしている。不都合が生じた時には、再度検討、対応している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の状態を把握し、起こり得る事故の対策をこうじる為検討、話し合いを行っている。事故発生時には、報告書を作成しミーティング等で再発防止に向け全職員検討、共有している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルに添って対応出来る様、全職員が応急手当や救急救命の勉強を内部研修で行っている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で、協力の呼び掛けをしたり、年2回日中、夜間を想定し、避難訓練や業者による機器の取り扱い説明を受け全職員が対応出来る様にしている。又災害に備え非常持出品の備蓄もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活面、医療面に於いて起こり得るリスクの対応策は、家族へ説明しているが、状態の変化が見られた時は、その都度話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者個々の病気の留意点を把握した上で、常に良く観察し、体調変化を察知し早期発見に努め、状況に合わせた対応を行っている。又、記録に残すと共に全職員で共有している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から注意事項を受けたり、全職員が利用者の薬の内容を把握出来る様に個別、毎食時毎にカードを作っている。又、保管方法、誤薬についても2重チェックする等事故の無い様、配慮している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、パターンを把握し、原因を探ると共に、食材やメニューを工夫したり、水分補給や体操、散歩等の運動への働き掛けを行い下剤をのまない様対応している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、入れ歯の手入れ、消毒、うがい、歯茎の異常、入れ歯のチェック等個々の状態により支援している。異常見られた時は歯科医の受診、往診、助言を頂いている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量、水分摂取量の記録を取っており、不足している時は調理方法で目先を変えたり、補食したりと栄養バランスに配慮している。又、栄養士等の専門家の指導、助言を頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する知識やマニュアルは常時目の付く所に貼り出し、除菌、消毒等の感染予防対策も実行している。又、看護師、系列医療機関より指導を受けたり、全利用者、職員インフルエンザの予防接種施行している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品や布巾の除菌、清潔保持の為、毎晩消毒を行い、冷蔵庫の整理、清掃日を決めている。又、食材を無駄にせず、新鮮な食材を使用する工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻りや前庭には、季節の花や木を植えたり、畑では野菜作りをしたり、家族、近隣の方が親しみ易い、家庭的な雰囲気作りに心掛けている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心が癒され、ぬくもりを与えられる様、絵画、季節の花や木を飾ったり、利用者と一緒に手作りした作品等を飾り、のんびり出来る様、配慮している。又、職員の声のトーンやテレビの音量、日差しの強さ等にも対応している。	○	入居者の馴染みの物や季節の物等を飾り、生活感や季節感を感じてもらう様、対応している。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いスペースの居間兼食堂にはテーブル、ソファが置かれたり和室、東屋等が設置され、一人になったり気の合う利用者同士がくつろげる場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	家族、利用者と相談し愛着のある家具、なじみの 装飾品を持ち込んで頂いたり、興味のある物、手 作り作品と一緒に飾ったりしている。又近隣や庭 の花を生け、和んで頂ける居室作りをしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	気になる臭いや空気のだよみが無い様に、自然の 空気を取り入れたり、空気洗浄機、換気扇、加湿 器を使用している。ホール、居室には温、湿度計が 設置されており、利用者の状態に合わせて調整する 等快適に過ごせる様配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーとなっており要所要所に手す りを設置し、身体状況の変化に応じて、車椅子、 シルバーカー等を使用し自立した生活出来る様配慮 している。又利用者が活動する場所には、障害と なる物を存在しない環境作りにも取り組んでいる。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室前には、家族同意の基で表札が掲げており、 利用者の状況に応じて目印を大きくしたり、のれ んを下げたりしている。又廊下には、居室迄の道 のりをテープで貼り場所間違いが起こらない様対応 している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	庭では、花植え、草取り、芝生の水やりをした り、東屋では、犬と戯れたり、昼食、おやつ、お 茶を楽しんだりし、歩道では、手すりを利用し歩 行練習に活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度は、地域の方々との触れあいを目標に、積極的に地域行事に参加し又、地域の方々がはなは行事の協力をして下さる等、交流を多く持つ事が出来ました。又看護師を配置し、24時間体制で連絡が取れ、主治医との連携を取りながら健康管理を行っている為、利用者、職員共に日々安心して過ごす事が出来ています。